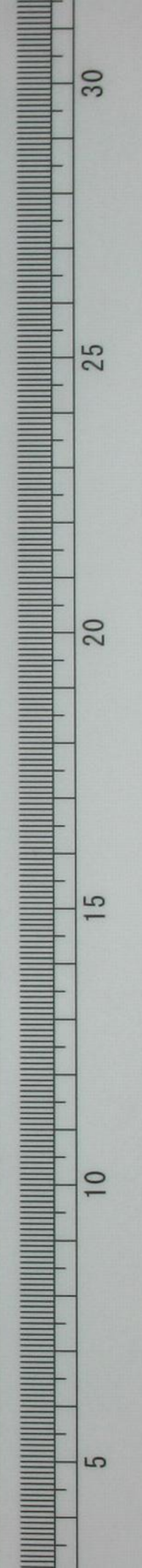




来春下卷四

1 13
915
4



二拾二本月田湯軍鑑末書下卷四

○備三名ノ条ノ事付在備馬鞍乃

沙汰穿鑿也

第一以人数備之乃敵味方ノ戦ニ故記也

第二其記ハ先天人地ノ変ヲ行ヒテ心附テ

事ハ能軍配者或ハ決智識ノ習可極也

第三世男ノ十ノ十二ノ合々ノ古二ノ作法也

○右十ノ変

一甲二乙三丙四丁五戊六己七庚八辛

九士十癸 是と云ふはくく云

○亦十二乃事

一子二世三寅四卯五辰六巳七午八未

九申十酉十一戌十二亥右此十二と云と定^キい

上

第四右十二乃^干又十二方へ申へて^干書^干取^干の如^干五^干時^干ハ

子午酉卯此四つハ四方と目^干也^干未^干ハ四角

乃^干給^干湯^干と見^干て^干合^干と^干也^干世^干寅^干辰^干巳

未^干申^干戌^干亥^干此^干八^干つ^干ハ^干四^干方^干ハ^干間^干角^干と^干目^干也^干統^干

四方の角より出入乃如。世未辰戌此四
つよと上と目よりと世未の四角ハ給湯
と可見合と云く也

第五右十二乃^干又^干戌^干予^干く^干て^干四^干方^干ハ^干五^干時^干ハ^干水

乃^干方^干是^干へ^干よ^干せ^干て^干五^干申^干子^干辰^干の^干三^干つ^干と^干東^干未^干

此^干方^干是^干へ^干よ^干せ^干る^干五^干亥^干卯^干未^干と^干南^干ハ^干火^干ハ^干方^干是^干

へ^干よ^干せ^干て^干五^干寅^干午^干戌^干と^干西^干ハ^干金^干乃^干方^干是^干へ^干よ^干せ

て^干五^干巳^干酉^干と^干未^干ハ^干四^干角^干ハ^干給^干湯^干と^干入^干て^干合^干と

と^干也^干

第六中土元より前より書如四つ出人おへよせて
画也末乃繪畷と能く見て知也

第七東の木へ右中土の内甲乙と流る甲の
木は生木也乙乃木材木の木或枯木也

第八南の火へ丙丁と流る丙の火は天火丁乃火
の家の内より焼火也

第九西の金へ庚辛と割る庚の金は鉄の鉄
辛乃金の錫金也

第十北の水へ壬癸と入割る壬乃水は流水癸

乃水は井水涵水の水のみ也

第十一右の通大形分別して是更思案究めて
祐備と能く之由るも能く戦て去勝利丁五
以唯しげもなす具是とて五ヶ条の條も
なしてハ勝利必死去程五ヶ条ハ
一手組二手分之他法ハ行儀正道一定
四流燄一味五主君へ忠言大切ハ正燄
是也如件也

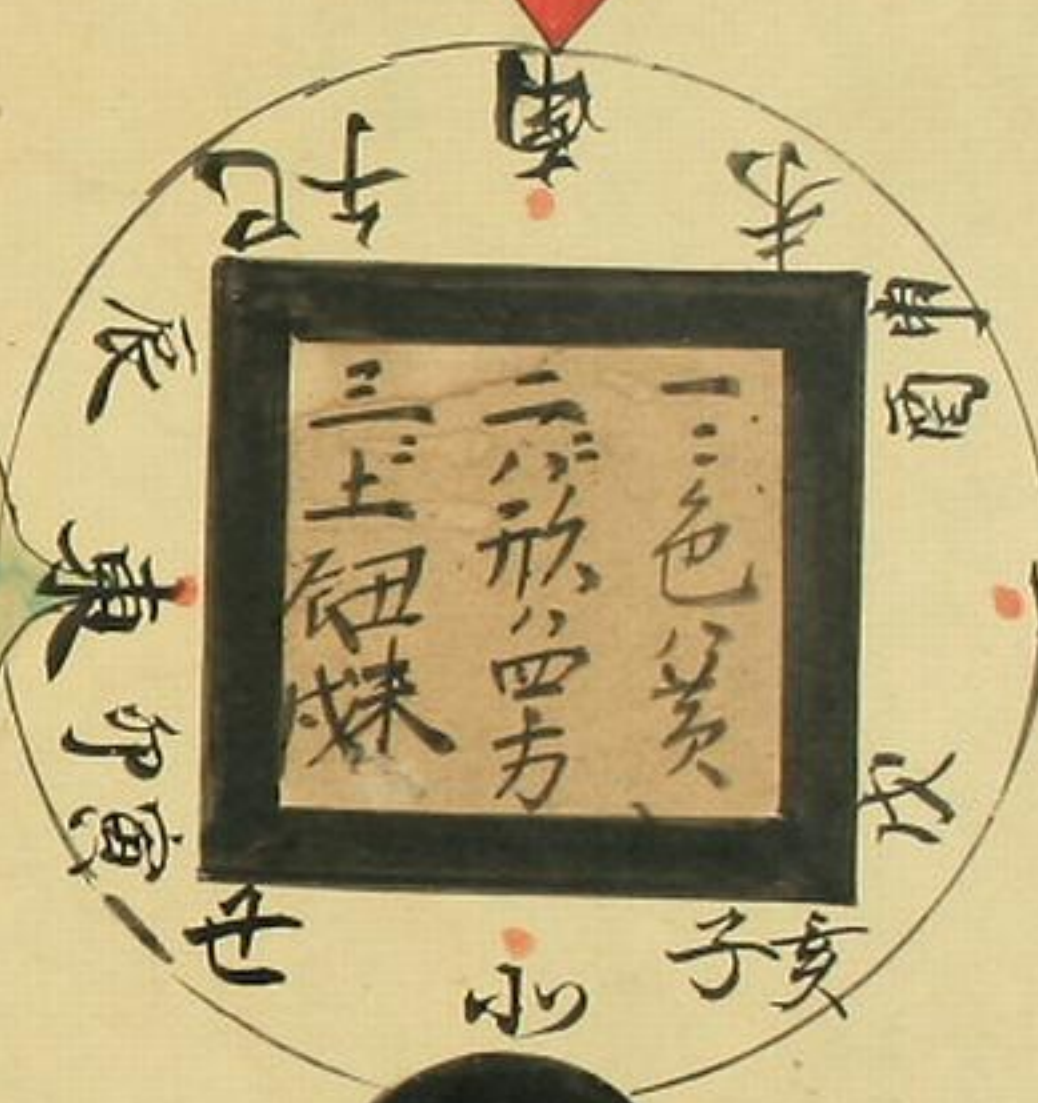
○邪道正乃ハ戦と知五箇條之度

一 火の勢
二 火の勢
三 火の勢

一 火の勢
二 火の勢
三 火の勢

一 火の勢
二 火の勢
三 火の勢
四 火の勢
五 火の勢
六 火の勢
七 火の勢
八 火の勢

一 火の勢
二 火の勢
三 火の勢
四 火の勢
五 火の勢
六 火の勢
七 火の勢
八 火の勢

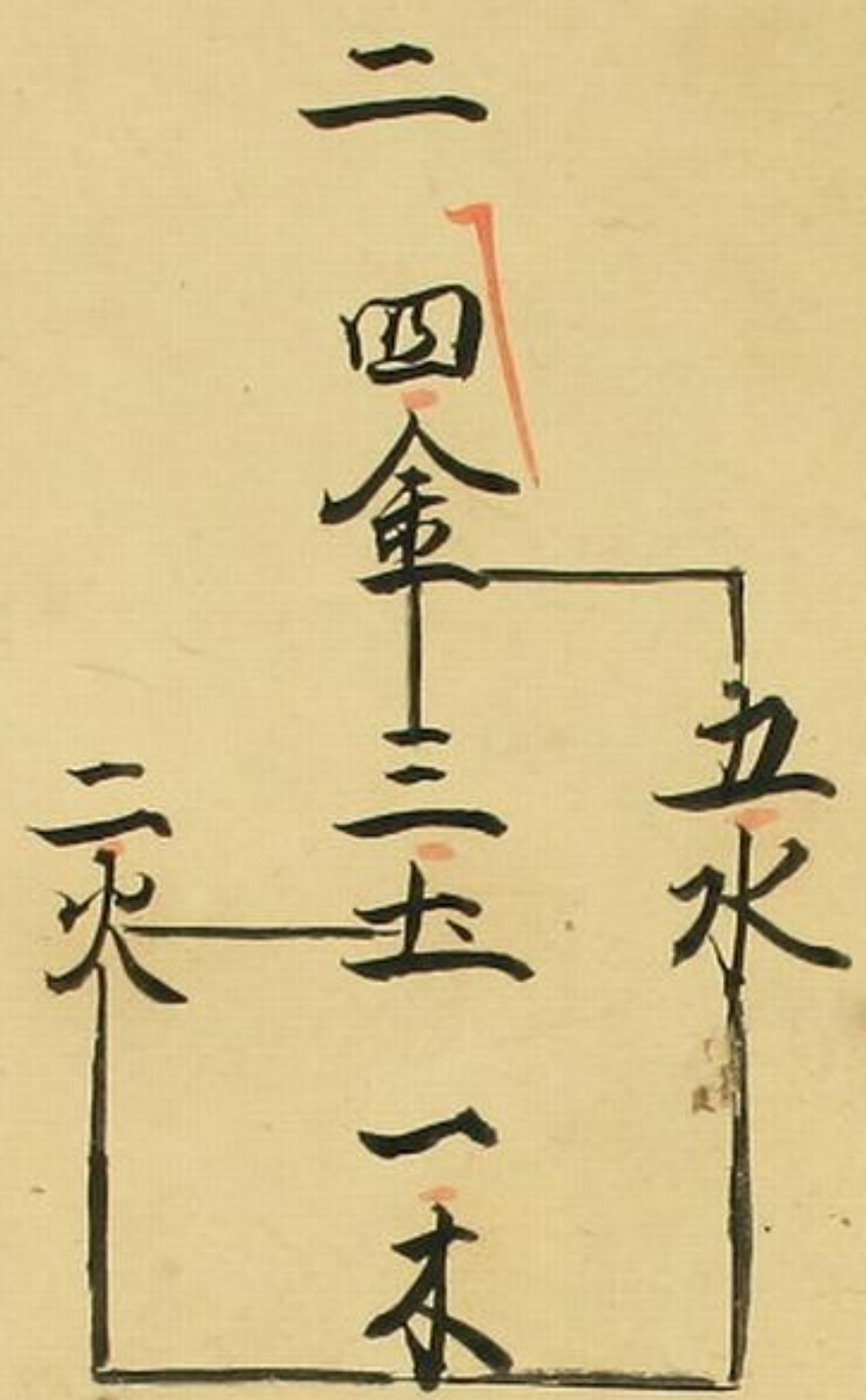


一 火の勢
二 火の勢
三 火の勢
四 火の勢
五 火の勢
六 火の勢
七 火の勢
八 火の勢

右の附

旺相死囚老

右五つは四季とあり
口傳



右五つは

一 木生火
二 火生土
三 土生金
四 金生水

一 木林と色東團形
二 火林赤色南三角
三 土林黃色中四角
四 金林白色西半月

五水生木

五水躰黒色小圓形

右記本末初て三三四五と加ふ如
此相なりして物云なり噴路正道也

○右五と月内と又三三四四のハ

四一東のこつよるも 未成出と

二南のこつよるも 成とわと

三西のこつよるも 世成出と

四北のこつよるも 成とわと

五[〓]北と合して世未成成此四つとて未成邪なり

必戦をこつ細に能脇へ平行と思ふは行路
非

道とて戦也如件よ逆路も右行なりよ行必
七つの中戦も亦二五八十一と本より五へ戦し是
廻る市と志よ行ての戦也火生と志よ行集
と思偏へ行火冠金と戦は皆逆路なり
也噴路正道物云なり亦戦様子五つハ

第一木冠五と戦

第二土冠水と戦

第三水冠火と戦

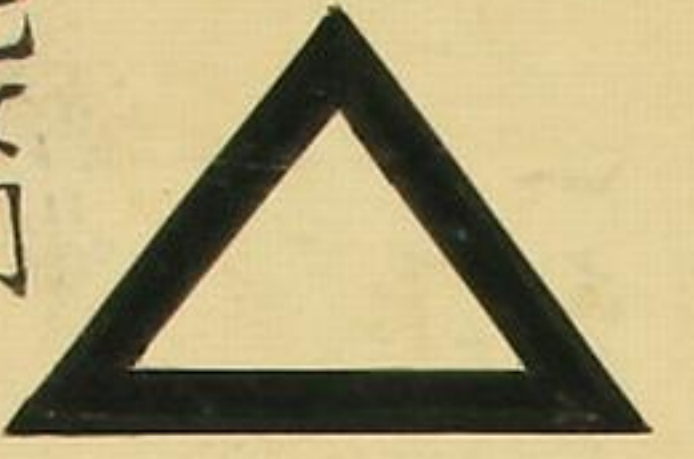
第四火冠金と戦

第五金刺木中戦

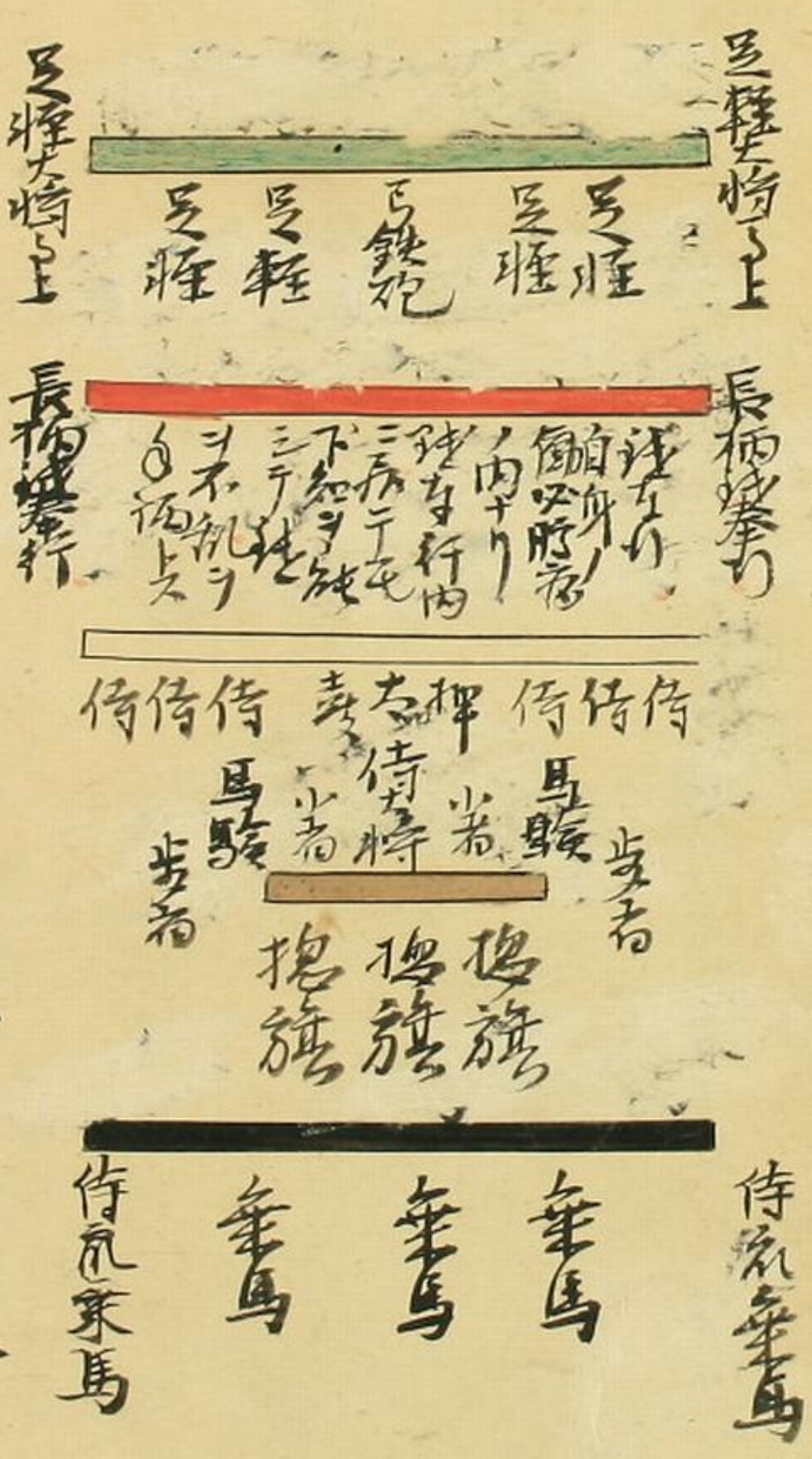


此三角は毘沙門の鎧の拾下は形也右の刀は毘
 沙門から第一は守護の天王也此故は信云云毘
 沙門堂より中門の内より拾下の一代合戦の後
 とは教の神付と見えぬ様中より成也又周中一
 代身合戦信云云より危なり勝れ九代は毘沙
 門より信力故長藤と有る故毘沙門信流也
 ○毘沙門咒
 一のんぬいそけゆがやまのりいなる
 こくろんよききやくゆんい
 いまきいひるあききいなるゆ
 せいしんらなるくくんせい

馬桑何坂下を得乃
 勇と取て如此馬は
 侍大將武者奉行徒
 奉行足輕大將討也望



右毘沙門
 乃布紋司
 三月廿日也



右此備馬桑五拾騎頭二騎使者六騎合て八騎
 除て五拾騎は揚也一備之也合戦は折河必也下
 互得道具取之折安侍大將者頭使者討馬上
 乃れハ五重より作の傳也

○信玄流軍法五箇条乃要

一 足輕大將功寡分。申合棟公教。功最。不
口。若。自。其。勸。言。事。付。自。身。の。働。必。之。仕
也。存。之。由。博。希。之。是。怪。と。指。上。言。以。左。之。て。同心
之。輕。之。指。入。勸。其。下。の。同心。之。程。共。以。之。一。之
勝負。不。如。上。之。味。方。勝利。之。失。敗。由。大。將。の。為。之
逆。心。同。意。也。是。の。由。漢。路。孫。由。由。之。就。其。之。嚴
乃。時。信。玄。云。作。合。ら。向。成。如。斯。也。

二 惣別者頼物奉行由陳前。不指上。一七

頼奉約也。任日身。其働。逆心。同之也。

三 海技指上。信。我。之。意。也。思。中。指。也。彼。更
指。上。之。不。如。也。今。身。相。向。業。之。我。身。不
亦。一。七。之。善。惡。之。信。之。程。之。名。之。思。中。指。也。其。法
之。背。心。之。應。病。之。上。之。氣。也。為。之。付。之。信。之。程。以。其。也
團。其。身。之。入。之。意。以。其。切。也。是。之。逆。心。同。意。也。唯。中。之
信。之。程。之。入。由。陳。前。如。書。付。之。程。之。信。之。程。獨。言
名。何。不。也。其。法。少。之。背。心。之。應。病。之。以。其。也
八 陳揚奇。其。而。之。者。我。之。地。講。任。人。必。之。以。其。

石八備之大庭内御前在是此未委書如件

○馬系五十騎能共之定九箇事

一 馬系五十騎

二 弓矢炮足物合六拾廿八人乳二組計是恒大拍二驛

三 長柄鎗世平士大拍八拾陸女平合分半平計

約式騎亦士大拍八拾陸二平半騎九備六

三のけ乃極旗の平計半の二騎

四 侍大拍乃步若黨三十人小者中間合六平人

八侍大拍れとくとに系便と海武者定騎

六 五拾騎の八古五騎の能寛の武者と一騎

宛頭と海武者騎

七 士大拍乃若下人二騎系截七平人吏古吏馬

五近朋切一騎小姓三騎右第二騎何故系懸

八 右惣侍乳小荷込馬侍乳十騎の正宛是

者夏秋如此冬初去と侍五騎の吏馬一

正宛擬平の吏八百人惣侍乳荷物物

と海冬初去八人吏百五拾也

九 者類物奉行二騎の八人吏一連各是四人

了通ありて主共五人は仕山止如件

○右五十騎乃備人数積七ヶ条此事

一馬系五十騎馬引一人能持一人之共百五拾

人付五十騎ハ一番五騎宛二番一割也

二足輕大約二騎旗奉行二騎右廿五騎宛此段

二騎宛奉行二騎此八騎ハ主共一四拾人付

四人五人連ハ積也

三士大約乃悴者小者中間合八十人

四士大約ハ馬中二本惣扱旗五本合七本是

引く者一本冬一人ありて廿一人

五侍大約乃持鎧惣長柄合五十五本是引

く者五十人

六引鉄炮足輕五拾人

七侍大約乃際一乗使と侍四騎四人連あり

主共廿一人

付五十騎計乃備ハ武者奉行乃子細侍
大約別武者奉行也但百騎と備ハ仕ハ武
者奉行一人有て其侍大約中ハ武騎ヲ以人数
不使此ハ勝負危ハ傳有以上

○合而四百拾壹人

付是上之下ハ皆具足着ハ武者也
者甲計ハ稱具足ハ必練物可然其子
細在口傳

○右外小荷駄乗懸元九ヶ條の支

一侍大乃の蓋取人二騎

二小狸三騎

三右半下二騎

四胴坊一騎

合而八騎二人連りして主言よ三人合而廿四人

五侍大乃の蓋取。俵小人史古人

六惣侍元へ後と人史百五十八上下の合百九拾四人

七士大乃の乗替きよ上馬二疋 付 馬乗五騎一史

馬一疋擬して女余慶と入て史馬十五疋也

八士大乃の史馬五疋惣合而馬廿一疋也

九惣合而小荷駄馬數乗懸元よ廿一疋人馬乗
よ惣數二百五十是ハ小荷駄也

右馬乗五十騎ハ備四百十一人 付 此小荷駄

二百五十都合六百六拾壹人の備是也此

ハ積よ心末迄人数備可定仍如件

右五十騎一備よ仕ハ武者奉行云之子細ハ侍

大乃武者奉行ハ如也口傳之 付 六十騎七十騎

一備よ可仕色士大乃乃分別次中但六十騎七十
騎一備よ半騎、廿騎よ弓鉄炮十挺討指副
後備よ用よ猶以吉自突後連の時乃為也
逆よ廻りて立て、弓鉄炮射か、打出よ吉よ病
○五六十里此間山中備押様三ヶ條変 是
一甲刃女坂相攻此如切取日本よ二ツ二ツ是
と不行作変

二東英濃杯乃如成山中と、弓鉄炮と用て押時
物見と鐵跡と見切道と、此山此頭よ備成

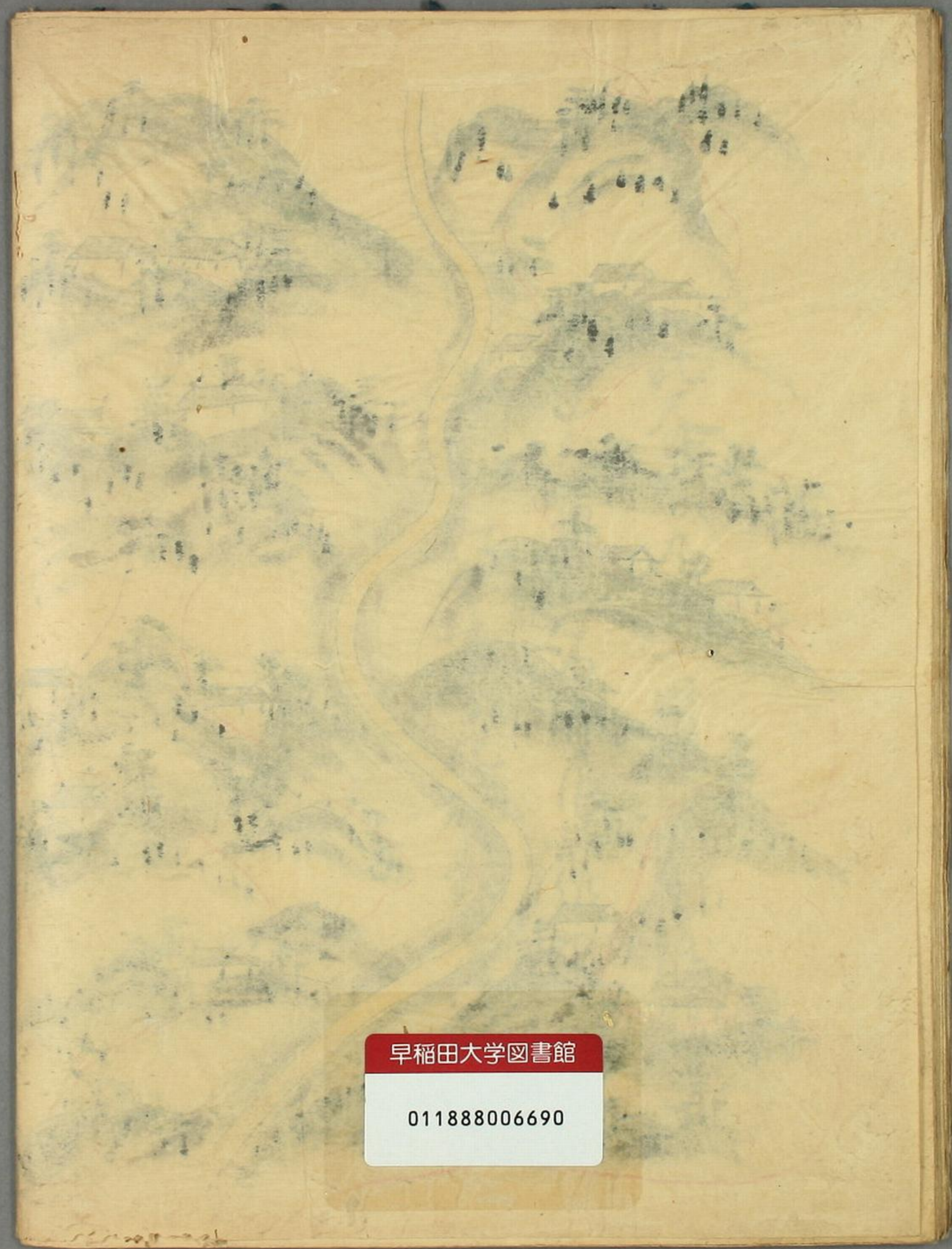
立可押変

三十里の道と十日めると、^山嶽此頭よ取出と
弓鉄炮と傳誠と梅澤番と、此山此道と此
小荷込或雜人と通し、此手と賊故園へ
入るよ変

右之ヶ條信玄公御之吏被成侍大乃成
者願奉行被成會候也



此各物九亦一圖之札在紙較多
 作之取迴亦自中作故九本也
 九圖之結之事尾烟勸之清如也



早稲田大学図書館

011888006690